

1. 教師の心構え

ア. じっと待ち、過保護にしない

児童の困っている姿を見かけた際は、それを「成長のチャンス」として捉え、安易に助け船を出さないようにする。教師が指示して引っ張る方が時間もかからず確実に次の活動へ進めることができるが、その行動が児童の主体性や創造性の成長を妨げ、依存性を高めて指示待ち状態にしていないか自問自答する。

「複式指導のなかで目指す姿（系統表）」に向けて、教師は後方から児童を見守り、言葉数に気をつけ、ここぞという場面で指示や助言を行う（見守り型支援）。心にゆとりをもち、児童の学びの様子をしっかりと見取ることが大切である。

複式指導のなかで児童が目指す姿（系統表）			
	低学年ができるようにしておくこと	中学年ができるようにしておくこと	高学年が得意できるようにしておくこと
学習態度	・ 教師の話をしっかりと聴く。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。	・ 話をする相手の話を聴く。 ・ 教師の話を聴くとき、必要に応じて自分の意見を述べる。	・ 話をする相手の話を聴く。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。
	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。
学習内容	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。
	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。
学習成果	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。
	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。	・ 必要に応じて自分の意見を述べる。 ・ 必要に応じて自分の意見を述べる。

イ. 増やす言葉と減らす言葉

複式学級のような少人数で限られた人間関係の中で、教師が児童に及ぼす影響は大変大きい。これから先、児童が大きな規模の集団に属した際にも、ひるまず自信をもって学ぶことができるように、厳しさと優しさの両面から、児童の自己肯定感を高める言葉かけを増やしていく。一方、前述の通り、児童の主体性や創造性を削いでしまうような言葉かけは減らせるか検討する必要がある。その結果、活動が円滑に進まなかったり思うような成果を得られなかったりしたとしても、その過程を価値付けることで十分な学びを得られる。

2. 直接指導と間接指導

ア. 直接指導（一方の学年へのみの指導）

直接指導を行っている間は、教師がどうしても欲張ってしまっていて指導の情報量が多くなり、児童の思考の流れに沿わない一方的な教授になりがちである。直接指導を行う際は、何を目的としたものなのか、何を考えさせるのか、しっかり精選しておくことが求められる。

イ. 間接指導（教師抜きの自学・自習体制）

間接指導は「指導がない時間」と捉えられてしまい、何かの作業をしたり練習問題をこなしたりしながら教師を待つなど、直接指導につながらない時間になることもある。しかし、間接指導はのちの直接指導を行うために児童の学びを見取るための絶好のチャンスである。また、間接指導を効果的に行うことは児童の自己決定を促すことであり、そこで培われる力は学習・生活の両面での児童の自主・自律につながる。教師・児童の両者が間接指導の意義を捉え、どのような時間にすべきか、その価値をあらかじめ共有しておくことが求められる。

間接指導の留意点

①学習の目標や流れをはっきりつかませるようにすること

②間接指導の時間における学習のきまりについて、児童とよく話し合っておくこと

③間接指導における学習指導の効果をあげるために、課題提示の仕方を工夫すること

④直接指導の時間に学習の進め方のモデルを教師が姿で示す

ウ. 「わたり」と「ずらし」

わたり…複式指導において両学年の間を移動して指導する形態。

ずらし…複式指導において両学年の同時の直接指導を避けるため、学習過程を意図的にずらして展開する形態。

直接指導及び間接指導を有効にするためにこれらの指導形態が用いられる。計画通

りに児童間を回れたことなど、教師自身の動きのみを取り上げて評価するのではなく、その時間の目標を達成するための適切な支援を行えたか、不断の見直しが必要である。

3. 学習リーダーの活用

ア. 学習リーダーの役割

学習リーダーを中心として児童が協働的に学習を進めることは、児童の主体性・対話的で深い学びを実現することにつながる。教授型の授業から、児童の声で進む授業への変革が求められる中、学習リーダーの設定と活用は効果的な方策の一つであると言える。

学習リーダーの役割

学習の準備	複式学級においては、特に児童が学習準備に参加することが大切です。ガイドに限らず、児童全員が準備をしながどんな資料や教材を使って、どんな活動を行うか予想することができ、主体的な学びへつながることができます。
学習の進行	学習の進行は、ガイドの役割の中心といえます。学習を進行するには、学習のねらいや内容の見通しもあてていることはもちろん、進行の手順も定まっている方が好ましいといえます。
学習規律を整える	学習技能の定着と同時に、話し合い活動を展開するガイド学習においては、学習規律を整える仕事がとても重要です。ガイドを中心に互いに声をかけ合いながら学習規律を整えていけるようにします。
学習の目標を達成する	学習を進めていく中で、早く目標が達成できる児童や、じっくり時間をかけて取り組む児童等、個によって違いがあります。ガイドは、他の児童とも協力しながら、全員が目標を達成できることを目指します。

「複式学級指導の手引き（令和元年度改訂版）」、令和2年3月、鳥根県教育委員会 より引用

イ.「木原学びのステップ」

間接指導の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するため、「木原学びのステップ」を児童と共有する。基本の流れは「課題設定－自力解決－集団解決－直接指導－まとめ練習」で、教科ごとに必要に応じてアレンジしていく。

ウ. 教師のファシリテート

「学びのステップ」を活用した間接指導において、児童の学びを促し、深化させるためには、児童の学びの様子をつかみ、授業全体をファシリテートすることが重要となる。

そこで、次のとおり、「ファシリテーターのスキル」を参考に、学習場面ごとの「ファシリテートの視点」を定める。これにより、ファシリテートの視点（目的）、場面、方策をより明確化・具体化することができる。

「ファシリテーターのスキル」(木原小) ※ ファシリテーター(Facilitator) = 「授業の学習活動が促進・深化するよう、支援し、方向付けを行う」といった役割を担う者(本校定義)

[illegible][illegible]

「対話」(自己・他者・事象)を促進・深化させるためのファシリテートの視点

		三 井 市 立 木 立 小 学 校	
I. 問題提示 課題把握 (つかむ)	自 己 ① 話しやすい雰囲気づくり、傾聴と受容 ② 目的や目標 (めあて) の理解 ③ 学習の共通し難い難点 (見れ、持帰、内容、方法等) ④ 既習内容や経験の想起・活用 ⑤ 目的にふじた ICT の選択・活用 (クロムブック・デジタル教科書)		
	自 己 ① 傾聴と受容 ② 調査や整理、表現上の助言 ③ 多様な見方や視点の助言 ④ 考え方の記号 (箇条書き、通点や異点、比較、対比、関連付け、連発等 発想網等) ⑤ 明確な意見の提示化 ⑥ 目的や目標の確認、方向付け・修正 ⑦ 目的にふじた ICT の活用 (クロムブック・デジタル教科書)		
II. 自力解決 (考える)	他 者 ① 話しやすい雰囲気づくり、傾聴と受容 ② 総合的な進め方の把握 ③ 問題意識の喚起 ④ 意見を引き出すための言葉かけ ⑤ 多様な見方や視点の助言 ⑥ 考え方の記号 (箇条書き、通点や異点、比較、対比、関連、対照、前提 発想網等) ⑦ 意見の提示化 ⑧ 対立点の提示・提示、異点の提示 ⑨ 賛成・反対の立場の強調 ⑩ 明確な意見の提示化 ⑪ 要点的整理 ⑫ 目的や目標の確認、方向付け・修正 ⑬ 意図的な、意思決定の方向付け ⑭ 目的にふじた ICT の選択・活用 (クロムブック・デジタル教科書)		
	自 己 ・ 他 者 ① 傾聴と受容、肯定的評価 ② 内容の助言 (目的や目標との整合、今後の問題意識、疑問) ③ 方法の助言 (理由付け、文字数、接続詞等) ④ 語の適切な共有化 (共有語や慣用語、前にも取り上げ、確認、次の活用等) ⑤ 目的にふじた ICT の選択・活用 (クロムブック・デジタル教科書)		
III. 集団解決 (学び合う)	他 者 ① 話しやすい雰囲気づくり、傾聴と受容 ② 総合的な進め方の把握 ③ 問題意識の喚起 ④ 意見を引き出すための言葉かけ ⑤ 多様な見方や視点の助言 ⑥ 考え方の記号 (箇条書き、通点や異点、比較、対比、関連、対照、前提 発想網等) ⑦ 意見の提示化 ⑧ 対立点の提示・提示、異点の提示 ⑨ 賛成・反対の立場の強調 ⑩ 明確な意見の提示化 ⑪ 要点的整理 ⑫ 目的や目標の確認、方向付け・修正 ⑬ 意図的な、意思決定の方向付け ⑭ 目的にふじた ICT の選択・活用 (クロムブック・デジタル教科書)		
IV. 評価のまとめ (評価、振り返り)	自 己 ・ 他 者 ① 傾聴と受容、肯定的評価 ② 内容の助言 (目的や目標との整合、今後の問題意識、疑問) ③ 方法の助言 (理由付け、文字数、接続詞等) ④ 語の適切な共有化 (共有語や慣用語、前にも取り上げ、確認、次の活用等) ⑤ 目的にふじた ICT の選択・活用 (クロムブック・デジタル教科書)		
	自 己 ・ 他 者 ① 傾聴と受容、肯定的評価 ② 内容の助言 (目的や目標との整合、今後の問題意識、疑問) ③ 方法の助言 (理由付け、文字数、接続詞等) ④ 語の適切な共有化 (共有語や慣用語、前にも取り上げ、確認、次の活用等) ⑤ 目的にふじた ICT の選択・活用 (クロムブック・デジタル教科書)		

また、考え方を助言する際には、次の「思考スキル」の一覧を参考とする。

「考え方の助言」から表現力育成を促進・深化させるための「思考スキル」の一覧（別紙）

思考スキル	定 義
1 多面的にみる	多様な視点や観点に立って対象を見る
2 変化をとらえる	相点を定めて前後の違いをみとめる
3 順序立てる	視点に基づいて対象を並び替える
4 比較する	対象の相違点、共通点を見つける
5 分類する	属性に従って複数のものをまとまりに分ける
6 変換する	表現の形式(文・図・絵など)を変える
7 関係づける	学習事項同士のつながりを示す
8 関連づける	自らの行為の影響を認識し、適切なものを選択する
9 理由づける	意見や判断の理由や根拠を示す
10 推測する	自らの行為の影響を想定し、適切なものを選択する
11 抽象化する	事例からまじりや包括的な概念をつくる
12 焦点化する	相点を定め、注目する対象を決める
13 評価する	視点や観点をもとに、根拠に基づいて対象への意見をもる
14 応用する	既知事項を用いて課題・問題とを解決する
15 帰納化する	部分や筋道をともに部分同士を関係づける
16 推論する	根拠に基づいて未来結果を予想する
17 具体化する	学習事項に対応した具体例を示す
18 広げてみる	物事についての意味やイメージ等を広げる
19 要約する	必要な情報に絞って情報を単純、簡潔にする

※ 中京大学 教養教育研究院教授 泰山 裕先生 「思考スキル」と「思考ツール」より参照

【参考】

「複式学級指導の手引き（令和元年度改訂版）」島根県教育委員会

「複式教育の基本的な考え方」 広島大学附属東雲
小学校

「自学が成立するための学年別能力表」 広島大学
附属東雲小学校